

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(5月4日～5月10日)

2019年5月 13日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、ブリュッセルにおける東方パートナーシップ10周年会合に不参加(5/4)
- 欧州復興開発銀行がベラルーシ経済見通し下方修正(5/10)
- 2018年に銀行セクターにおいて20件の贈収賄・腐敗行為が発生(5/10)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●対独戦勝利記念式典に参加

5月9日、ルカシェンコ大統領は勝利広場で開催された対独戦勝利記念式典に参加。

主な発言内容：

- ・戦時中子供だった方々が、戦後ベラルーシを支え、守り抜き、第二次世界大戦に関する生きる証人となっている。
- ・次世代の者は、自由のためにベラルーシ国民がどれだけ犠牲を払ったのか覚えておく義務がある。
- ・現在欧州大陸において結束が無くなりつつあり、また近隣国における軍事的存在感が強まってきており、各国との建設的な対話が必要となっている。

(5/9 大統領公式サイト)

●独立国家共同体各国首脳より、対独戦勝利記念の祝電受領

5月9日、対独占勝利記念の祝電を独立国家共同体の各国首脳より受領した。

(5/9 大統領公式サイト)

●ルーベン・リブリンイスラエル大統領へ独立記念日に際する祝電(5/9)

祝電の主な内容：

- ・イスラエル独立記念日と独ソ戦勝利記念日が同日であることはシンボリックなことである。
- ・歴史的・文化的な繋がり、および両国相互の理解のもとに成り立つ両国関係の発展は、両国民にとって長期にわたって利益となるであろう。

(5/9 大統領公式サイト)

●ステボ・ペンダロフスキ北マケドニア新大統領に大統領選出に際する祝電

祝電の主な内容：

- ・相互の信頼と尊敬に基づいた両国間の友好関係のさらなる深化を願う。
- ・北マケドニアに対してベラルーシは貿易協力、学術や観光における二国間交流の振興、国際機関における支援を期待している。

(5/6 大統領公式サイト)

【内政】

●ルカシェンコ大統領、汚職対策への追加施策に関する法令に署名(5/10)

同法令により、収賄罪逮捕者への減刑措置が原則禁止となった。これまで、元政府高官の収賄犯罪者は、刑期満了前に釈放されることが多々あった。同法令署名にあたり、ルカシェンコ大統領は「刑務所で豊かに暮らすより、自由の身で貧乏の方が良いはずだ。今後は刑期満了前の釈放は許さない」と発言。

(5/10 TUT.BY)

【外交】

●ベラルーシ共和国軍幹部、アゼルバイジャンを訪問(5/5～5/8)

訪問団のトップは、ベロコネフ国防副大臣。訪問にあたってアゼルバイジャンザキル・ガサノフ国防大臣と会談した。

●クラフチェンコ外務次官が V4+東方パートナーシップ参加国外相会談に参加(5/6)

5月6日、スロバキアのブラチスラヴァで開催された「V4+東方パートナーシップ参加国外相会談」においてクラフチェンコ氏は、EU とベラルーシ間の基本条約締結交渉開始を呼びかけた。

(5/7 ベラパン通信)

●ルカシェンコ大統領、ブリュッセルにおける東方パートナーシップ10周年会合に不参加

5月4日、ベラルーシ外務省は、5月13日・14日に予定されている東方パートナーシップ10周年会合の参加メンバーにルカシェンコ大統領が含まれていないことを公表した。同時に、参加メンバーの筆頭はマケイ外務大臣であることも発表。

外務省は、東方パートナーシップを EU との対話や協力拡大の為の実用的な手段として捉えており強い関心を寄せているが、ベラルーシEU 関係には未だ課題が残っている、とコメント。

(5/4 ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●2018 年に銀行セクターにおいて20件の贈収賄・腐敗行為が発生(5/10)

5月10日、ベラルーシ銀行は、「2018年にベラルーシの銀行セクターにおいて、20 件もの贈収賄事件が発生した」と発表。

内訳は以下の通り:

- ・賄賂受領: 9件
- ・賄賂贈与: 5件
- ・職権濫用: 6件

(5/10 ベラパン通信)

【対外経済】

●ベラルーシは欧州復興開発銀行 (EBRD) へ2019年の投資金額拡大を提示

5月7日から9日にかけて、ボスニア・ヘルツェゴビナにて EBRD 年次総会が開催された。ベラルーシからは、クルトイ経済大臣が参加。総会后、クルトイ大臣は「直近2年で、M3(ミンスク-ヴィテプスク間)道路

改修案件への調印が予定されており、同案件の投資金額は430万ユーロにもなる。道路改修案件に加え、水道セクターにおける融資契約の署名について協議を行っている。特に、ヴィテプスク州における除鉄処理プラント建設(計15百万ユーロ)や7都市における上水道近代化案件(計40百万ユーロ)が検討なされている」と発言。

(5/10 ベラパン通信)

●欧州復興開発銀行がベラルーシ経済見通し下方修正

5月10日、欧州復興開発銀行は半年ごとに更新される欧州各国の経済成長見通しを更新。ベラルーシの経済成長見通しは、2019年が2%。2018年11月の更新時の同数字は2.5%であったが、今回の見通しで0.5%下方修正となった。欧州復興開発銀行のエコノミストは、大規模な構造改革なしではベラルーシの経済潜在力は限定的であるとコメント。さらにロシアによるエネルギー税操作が、ベラルーシの石油精製企業の利益を抑制していることを指摘。

(5/10 ベラパン通信)

●ロシア農業監督庁がベラルーシ企業3社へ納入制限を課す

5月8日、ロシア農業監督庁が5月10日よりベラルーシ企業3社(「プレスト食肉工場」、「マラコー」、「ミルカヴィタ」)へロシアへの納入制限を課すことを発表。なお、同庁はその他11社に対し衛生管理強化を行う予定。

(5/8 ベラパン通信)

●ベラルーシ外務省、ロシア大使館へロシア人3名を拘束した旨を公式に通知した。

5月7日、在ベラルーシロシア大使館報道班は、ベラルーシ外務省より国家保安委員会がロシア人3名を拘束したとの通知を正式に受領した旨、発表。同大使館は、拘束されたロシア人と同大使館領事班員の接触可否をベラルーシ外務省へ照会中。当該3名の拘束が、昨今のベラルーシ政財界における収賄と関

連しているか否かは不明。

(5/7 ベラパン通信)

●外務省報道官「リトアニア首脳は、オストロヴェツ原発に関する協議を裏切りと見なしている」

5月4日、ベラルーシ外務省報道官は、リトアニア政府が欧州委員会に対しオストロヴェツ原発への対応策検討の要求を行ったことに対し「リトアニア首脳は、オストロヴェツ原発に関する協議を裏切りと見なしている」コメント。さらに「リトアニア政府がベラルーシ原発に関し、根拠に欠けた、偽りの声明をしており非常に遺憾である」と発言。また、「ベラルーシ政府としては、原発推進にあたり、EU と協力を続け安全確保を努める意向である」と表明。

(5/4 ベラパン通信)

●ベラルーシ通信大手「ベルテレコム」代表取締役が収賄容疑で起訴。

5月4日、国家保安委員会は、ベラルーシ通信大手「ベルテレコム」代表取締役であるシボデドフ氏がロシア人から約1万5千ユーロの賄賂を受領したとして起訴されたことを発表。シボデドフ氏はロシア国籍の男性「K」氏より、情報通信機材納入協力と引き替えに約1万5千ユーロの賄賂を受領した模様。現在は身柄保全処分を受けている。

(5/4 ベラパン通信)

(了)